

# THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2015~2016年度 No.188

## 9月 月報

那須クラブ会長 主題  
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：ユース

那須ワイズメンズクラブ



8月東京目黒・那須クラブ合同例会 2015年8月27日 於：北区しらかば荘

2015~2016年度 主題  
 国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)  
 「信念のあるミッション」  
 アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong (シンガポール)  
 「愛をもって奉仕をしよう」  
 東日本区理事：(RD) 渡辺 隆 (甲府)  
 「原点に立って、未来へステップ」  
 北東部長：中川 典幸 (仙台)  
 「今と原点を融合して未来へ」 - 楽しく改革・笑って行動 -

クラブ役員 事務局  
 会長：田村 修也  
 副会長：村田 榮  
           河野 順子  
 書記：荒井 浩元  
 会計：鈴木 保江  
 担当主事：荒井 浩元  
 プリテン：田村・村田

8月例会データー (出席率：83%)  
 在籍者 6名  
 例会出席者 5名 メネット 3名  
 ゲスト 9名  
 メイクアップ 0名

今月の聖句  
 「人の心には多くの計らいがある。主の御旨のみが実現する。」  
 箴言 19:21

東京目黒クラブ 那須クラブ  
 9月 Happy Birthday  
 9/15 村野 繁メン 9/10 原田 時近メン

### 「フィリピン タラ ナボタス 交流キャンプ 2015」

書記・担当主事 荒井 浩元

8月7日(金)～14日(金)までの8日間、とちぎYMCA国際プログラム、「フィリピン タラ ナボタス 交流キャンプ2015」に参加いたしました。フィリピンキャンプは私が高校生の頃から参加したいという気持ちが強くあり、念願のものでした。キャンプ中、参加しているキャンパー仲間と真剣にプログラムに参加したり、楽しく語り合ったりととても濃い8日間となりました。フィリピンキャンプでとても印象に残ったのは、「フィリピンにおける様々な人々の生活(LIFE)に触れたこと」でした。キャンパーだけではなく、ナボタスの Sawata 地域(スラム地域)に住んでいる方々、タラでホームステイをした家庭、教会コミュニティにいる方々、マニラ市街地に住んでいる方々、チャリティ施設にいる病気を患っている子どもたちやお年寄りの方々など、沢山の人と出会うことができました。裕福な人や貧困で苦しんでいる人、子どもたち、学生、お年寄りの方などには、それぞれの多様化された生活があるのだと気づきました。様々な生活の中には、困っている姿もあれば、笑顔で過ごしている幸せそうな姿もありました。私たちにとって「幸せ」とは何だろうかと改めて考えさせられました。ヒト・モノ・カネ・情報が世界中で行き来し、誰もがグローバル化に憧れ、求めている中、ローカルでの生活ということのを忘れがちになっていないかと感じています。

#### 「世界を見つめ、地域に生きる (Think globally, act locally)」

それは私たちにとって大切な視野であり、常に世界を感じながら地域(私たちが過ごしている生活)について考え、そこでアクションを起こしていくことが大切ではないかと改めて感じました。今回のキャンプは、とても実り多きものとなりました。サポートしてくださった全ての方々に感謝いたします。



### 8月例会(東京目黒・那須クラブ合同例会)

日時: 8月27日(木)午後6時～午後8時30分  
場所: 北区しらかば荘

参加者: 田村会長、河野、原田、村田、荒井。メ  
ネット: 田村、原田、村田。東京目黒クラブ: 村  
野(2)、福島、根本各メン、福島コメント、根本  
マゴネット(本間)、ゲスト: 小山、今野  
合計: 16名

8月例会は北区しらかば荘においてのDBC東京目黒クラブとの交流会を27日の夜に行いました。26日(水)午後2時30分那須塩原駅に那須クラブより、田村会長、荒井担当主事、村田二人の4人でお迎えをし、東京目黒クラブの関係者8名と3台の車に分乗し、北区しらかば荘に向かう、総勢12人温泉と夕食を楽しみ、その後田村会長より明日見学する那須疎水の歴史の背景の説明を聞きながら楽しい歓談の時を持った。翌27日は、午前7時から那須クラブの田村会長のお話とデボーションの時を持ち、午前9時30分に那須クラブの原田メン・メネットを加えて、総勢14名で田村会長の先導で那須疎水と昼食後西那須野教会の見学をした。このブリティンに田村会長が連載中の「旧西那須野(那須西原)の緑と水」を思い出しながら、100年前に作られた疎水が那須野が原の開墾の始まりであり、その大事業を成し遂げられた先人たちの働き的一端を見ることが出来ました。疎水の見学は一部だけであり、まだまだあると感じた。夜に那須クラブの河野副会長、田村メネットを加え総勢16名が夕食に引き続いて例会と懇親の場を持ちました。参加者の紹介から始まり、アジア大会の報告を東京目黒クラブの村野メン・メネットよりお伺いをした後懇談の時を持った。那須クラブのメンバーは村田二人を除いて帰宅。28日(金)は、東京目黒クラブのお話とデボーションの時を持ち、朝食後、那須観光を行い、午後2時50分に那須塩原駅にお送りし、次の再会を願いながらお別れをいたしました。



## 8月役員会報告

日時：8月14日（金）18：30～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、村田副会長、田村メネット  
協議事項

### 1. 8月例会（DBC東京目黒クラブとの交流・合同例会）について

東京目黒クラブが2015年8月26日（水）～28日（金）の2泊3日で「北区しらかば荘」での移動例会を開催。那須クラブとして、27日（木）の夜に1泊で交流会を行う。なお、当日の昼間に、田村会長による「那須疎水」を案内・説明を行う。那須クラブの宿泊予定者の確認、田村会長、村田メン・メネット2泊。荒井担当主事26日1泊（27日の夜まで）、河野副会長、田村メネット27日の交流会に参加。

### 2. 北東部会出席の件

9月5日（土）午後1時より「TKPガーデンシティ仙台勾当台」で開催の部会出席者の確認。村田メン・メネットが出席。

### 3. 9月役員会と例会の件

9月4日（金）午後6時30分～、ココス西那須野乃木店。9月例会は、26日（土）キャンプ場の下見をした後に原田さん宅で例会を行う。リーダー・リーダーOBの参加を期待する。詳細については、9月役員会で決定する。

### 4. ブリテンの内容について

9月号より、西那須野幼稚園・エルム福祉会の記事を掲載する。アジア学院は、9月号の掲載はなし、西那須野幼稚園・エルム福祉会、アジア学院で隔月に掲載をする。

## 旧西那須野（那須西原）の緑と水（29回）

田村修也

話は、第24回の松方正義大蔵大輔兼勸農局長からの約束の電報の来るのを、印南、矢板が心待ちに待ったところへと戻ります。

11日になり待ちに待った松方の「13日に行く」という電報が届きました。鍋島県令は、塩谷・那須両郡の郡長その他の属僚を従えて、勿論印南・矢板も同行して、予定の時刻に降り立つ白河駅に出迎えました。それから鍋島県令が先導して、那須湯本に案内しました。一行が那須湯本に到着する頃には、日は丁度西の山々に沈もうとしていました。一行はその付近の高い所に足を止めて、落日の光を浴びて、まさに暮れようとしている那

須野が原の大景を展望いたしました。印南と矢板は、水路入口の予定地である細竹西岩崎あたりを指差しながら、説明に努めました。一行はその夜は那須湯本の宿に泊まりました。

翌日の11月14日、鍋島県令の先導で、一行は那須湯本を出発して、先ず黒磯付近の那須牧場を視察して、東那須の東小屋を通り、那須西原の中央の高地である烏ヶ森の丘の上に到着いたしました。丘の上には、この日大官である伊藤内務卿、松方大蔵大輔兼勸農局長に面接の栄光に浴したいと、塩那産馬会社の社員、地方有志等々多数が集まって到着を待っていました。

烏ヶ森の丘の上は、那須西原のほぼ中央に位置しており、標高約280m、この丘に登れば、西北の方には、日光、高原、塩原、那須等の連山が、屏風を立てたように延々と連なり、東の方には八溝山系の山々が起伏しており、その裾野は遥かに南の方にのびて、その果てには筑波の秀峰を望み見ることが出来ました。更に目を足元に転じれば、那須西原の原野を一眼に収めることができるという、実に雄大な眺めでした。現在では、大きな松が巨大な盆栽のように丘全体を飾りたて、桜や檜を始め様々な落葉広葉樹が林立していて、それらの木々が落葉する季節であっても、当時の眺望は想像するしかない状況にまで、豊かな樹林になっています。しかし、明治23年11月に16歳で開拓のため入植した、「那須疎水」の著者である田島 董少年には、烏ヶ森の頂上に立って、この明治12年11月の伊藤、松方両大官に印南、矢板が腕を伸ばして指差しながら、那須連山、八溝山系、そして那須野が原開拓と疎水開削の計画を説明している姿に、思いを馳せることが容易に出来、その大眺望は昭和31年に「那須疎水」を上梓した時も、92歳で召天するまで、脳裏から離れなかったことでしょう。

ただこの日は生憎なことに、那須野が原名物の那須凧という西北風が吹き荒れて、寒気もなかなか強かったので、集まっていた人々が並んで人垣を作り、一行を中に囲み込みました。その中で、印南と矢板は、水路計画の図面とその位置を、そここと指しながら、開拓の重要性を力説して国の援助を懇ろに要請しました。その情熱は、両公の心を動かさずにはおこななかったと伝えられています。時は既に正午を過ぎていました。昼食といっても大官たちを満足させるような珍味があるはずもなく、思い付きの握り飯に芋田楽を添えて、これは那須野の蒲焼ですと差し出すと、大官たちも、印南、矢板の誠意を喜んで、賞味したそうで

す。この話は、矢板から幾度も聞かされた事だと田嶋 董さんは著書の中で書いています。

(以下次号へ)

## 今後の予定

### ・ 9月例会 (キャンプ場下見と懇談の時)

日時：9月26日(土)午後3時30分～

場所：塩谷キャンプ場・原田ワイズ宅

内容：塩谷キャンプ場の下見をし、那須クラブがこれからできることを考え・話し合う

《スケジュールの確認》

9月26日(土)午後3時30分那須YMCAに集合・分乗、原田宅により、塩谷キャンプ場午後4時30分ごろ到着。キャンプ場の下見後原田ワイズ宅に向かい、夕食をしながら懇談の時を持つ。

### ・ 9月役員会

日時：9月4日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

### ・ 北東部部会

日時：9月5日(土)午後1時～

場所：TKPガーデンシティ仙台勾当台

### ・ アジア学院収穫感謝祭 (10月例会)

10月10日(土)・11日(日)

## エルム福祉会のあゆみ

### ① 「創始者 榆井一俊への神様の導き」

榆井が特殊教育に関心をもったきっかけは、乳幼児のころの子守がろうあ者であったこと、師範学校に入学して、障害児教育を研究したことによる。師範学校卒業し、19歳で教員になり、4年間金丸小学校に勤務。1953年4月、西那須野中学校へ。当時の校長深谷勝樹先生は、栃木県特殊教育研究連盟の会長で、転勤は特殊学級設置の際の担任になることが条件だった。翌1954年に準備、1955年に開設するため、文部省の講習を受けた。その当時は、一条中学校・鹿沼東中学校・足利第三中学校・戸祭小学校・馬頭小学校にあるだけだったので、一条中・戸祭小を参観したり、特殊教育に関する書物を片っ端から読んだりして、最初は通級の『相談室』として開級した。生徒5名。なかなか保護者の了解が得られず、8名以上という設置基準に満たずに焦ったようだが、幸い、深谷校長はじめ職員の協力があ

り、徐々に生徒数も増え、作業学習も箱作りなどを取り入れて軌道に乗り、13年間担任を続けました。学級名も『榆井学級』と称し、有名になったが反面、差別的考えも強く、「精神遅滞児育成会」という援助組織を形成し、地域の啓発に力を入れた。榆井は、『ちえ遅れの子ども達』といっても、一概に言えないが、その教育の一番のねらいは卒業後の社会的自立であると考えていました。自分の力で食べていくという、職業生活、社会生活、家庭生活の基本は、普通的能力を持っている者にとってはなんでもないが、その子供たちにとっては、極めて厳しいものがある。そのために、そうした子を持つ親の心配は並大抵ではなく、卒業すれば、やはり親の判断や、親の庇護がぜひ必要になってくる。

そこで、そうした子を持つ親たちと、それを理解し援助する人たちの集まり『手をつなぐ親の会』をつくろうということになり、その初代会長に、西那須野教会の名誉長老だった故杉山千波さんに就任していただいた。そして、何度か杉山さんのお宅に伺ったりしている中で、杉山さんから、一度教会に来てみないかと誘われ、極めて自然に礼拝にも出席するようになったという。そして、その年(1993年)2月22日のクリスマス礼拝で洗礼を受けた。

### ② (財)エルム共同作業所設立について

榆井が、定年前54歳の時、私財を投じて(財)エルム会を設立。

1984年4月10日オープン。約200平方メートルの私有地に、退職金を前借りし、総工事費1000万円、延べ床132平方メートルのエルム会館を建設し、一階を電気部品組み立てなどの作業室、二階を指導、相談室に充てた。初年度は男性3名・女性3名 計6名でスタートした。

### ELM(エルム) Erementary Labors Method

(「基本的作業法」の意と英名で「榆の木」の意)まわりからは、「校長を目の前にしてもったいない」「そこまで思い詰めなくても」とも言われたが、すでに40代から計画していて、決意は固かった。(自分の体の限界を考えての決断でもあったと思う)「社会的自立ができれば、精薄者でなくなると私は考えています。作業を通して自立させてやるのが私の務めです。多くの人たちの援助に感謝しています。」と新聞の取材に答えている。

### 榆井の愛唱聖句

<聖書イザヤ書35章5～10>

そのとき、見えない人の目が開き、聞こえない人

の耳が開く。そのとき、歩けなかった人が鹿のように躍り上がる。口のきけなかった人が喜び歌う。荒れ野に水が湧きいで荒れ地に川が流れる。熱した砂地は湖となり乾いた地は水の湧くところとなる。山犬がうずくまるところは葦やパピルスの茂るところとなる。そこに大路が敷かれる。その道は聖なる道と呼ばれ、汚れた者がその道を通ることはない。主ご自身がその民に先立って歩まれ、愚か者がそこに迷い入ることはない。そこに、獅子はおらず、獣が上がって来て襲いかかることもない。解き放たれた人々がそこを進み、主に贖われた人々は帰ってくる。とこしえの喜びを先頭に立てて、喜び歌いつつ、シオンに帰り着く。喜びと楽しみが彼らを迎え、嘆きと悲しみは逃げ去る。

また、次のような題で文章を残している。

「差別とのたたかい」—今あなたがたが『見える』  
と言い張るところにあなたがたの罪がある—  
〈ヨハネによる福音書 9章 1～7〉

イエスが道をとっておられるとき、生まれつきの盲人を見られた。弟子たちはイエスに言った。『先生、この人が生まれつき盲人なのは、だれが罪を犯したためですか。本人ですか、それともその両親ですか。』イエスは答えられた。『本人が罪を犯したのでもなくまた、その両親が犯したのでもない。ただ神のみわざが、彼の上に現れるためである。わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを昼の間にしなければならぬ。夜が来る、すると、だれも働けなくなる。わたしは世の光である。』イエスはそう言って、地につばきをし、そのつばきで、泥をつくり、その泥を盲人の目に塗って言われた。『シロアム（つかわされた者、の意）の池に行き洗いなさい』そこで彼は行って洗った。そして見えるようになって帰って行った。」

ずいぶん長い文を引用しましたが、実はこの文章の最後に、この文の副題の御言葉があります。「神は私の中に生きる」と、障害のある人達が信じる時、その障害はかえって、神の賜物になると言われています。そうした神の賜物としての障害は、ヨブがその苦しみの中でさえ信じ通した信仰の原点かもしれません。私達の多くが、健常者だと、うぬぼれている間に、神はいつしか年を重ねさせ、老化によって力を衰えさせ、目や耳や口や足腰すら不自由にし、あまつさえ、精神的にもダメージを与えて、キルケゴールのいう「死に至る病」を悪化させていきます。つまり、誰もが障害者になる可能性を持っているのです。ですから、

障害者とか健常者とかの区別はその時の状態像としての区別にしかすぎません。丁度、幼子でも、成人でも、若者でも、老人でも、男でも、女でも、貧しい人でも、金持ちでも、また、アメリカ人でも、アフリカ人でも、共に一日24時間が与えられているのと同様に、私達は等しくひとつの生命、一つの人生を与えられているのです。にも拘わらずこの世の人は前述の弟子と同じように、障害のある人を見ると、それをその人の又はその両親の罪にしてしまうことが多いのです。そこに差別と偏見が生じ、障害のある人達とともに生きるための世の中の障害を作ってしまうのです。

障害のある人達が普通のごく当たり前の社会の一員として共に生きることを目指して、私達の社会を変えて行くことは、主の御旨であると信じ、差別と偏見とたたかっているだけではありませんか。いわく「ノーマライゼーション」いわく「インテグレーション」を世界の潮流として、乾いた土地に水がしみ込むように、浸透させていきたいと思えます。この信仰によって、神様の導きに希望を抱き、事業が展開されていく。

## 西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園  
園長 福本光夫

「ナチスが共産主義者を攻撃したとき、自分はすこし不安であったが、とにかく自分は共産主義者でなかった。だからなにも行動にでなかった。次にナチスは社会主義者を攻撃した。自分はさらに不安を感じたが、社会主義者でなかったから何も行動にでなかった。それからナチスは学校、新聞、ユダヤ人等をどんどん攻撃し、自分はそのたびにいつも不安をましたが、それでもなお行動にでることはなかった。それからナチスは教会を攻撃した。自分は牧師であった。だからたつて行動にでたが、そのときはすでにおそかった(\*1)」

前文は、以前にも紹介したドイツのルター派牧師であり告白教会の指導者マルティン・ニーメラーの言葉に由来する詩です。敗戦70周年を迎えたこの夏、新聞記事やテレビ番組において多くの戦争や平和についての特集が組まれました。ご覧になった方も多いと思います。保護者の皆さんはもちろんですが、私も戦争を知らない世代です。以前読んだ新聞記事に沖縄の善隣幼稚園の園長國吉牧師が、「戦争知らない子ども達」から「戦争をしない子ども達」ということを述べてました。

4人に1人の県民が戦争によって命を失った沖縄には、命どう宝（ぬちどうたから）という言葉があります。沖縄語で「命こそ宝」という意味の言葉です。

私は、大人は子どもに「平和」を残す使命があると考えます。学期末の「しらゆり」にも書きましたが、聖書の「平和(シャローム)」は、単に戦争が無い平和な状態ではなく、愛と正義に裏打ちされた、現実には生きている人たちが真に幸福な状態です。つまり、貧困、差別、暴力等もないのです。幼稚園は平和を教える学校です。これからも世界の1人1人の命が大切にされることを願って、歩みます。

\*1「現代政治の思想と行動(丸山真男,未来社)」  
(西那須野幼稚園「しらゆり」2015年8月28日号より)

## YMCA報告

**【とちぎYMCAサマープログラムが無事に終了しました!】**

7月中旬よりスタートしました、とちぎYMCAサマープログラム合計15プログラム(ウェルネス・国際・トライ東事業プログラムを含む)が予定通り実施され、無事に終了いたしました。

子どもたちはプログラム中、有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

那須YMCAでは、大学生のユースボランティアリーダー10名が各プログラムに参加し、それぞれの役割の中で子どもたちと向き合い、共に過ごしました。YMCAのプログラムには Caring (やさしくする)、Honesty (しょうじきになる)、Respect (人を大切におもう)、Responsibility (できることは自分からする) というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれらを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。

この度は、とちぎYMCAサマープログラムにご協力頂きありがとうございます。今後ともご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

**【とちぎYMCA・那須YMCAの9月の予定】**

・9/5(土) サタデークラブ(紙すき体験)  
・9/7(月)~9(水) 第19回アジア太平洋YMCA大会: 於韓国

※とちぎYから鷹箸代表理事、塩澤総主事、

職員の小野寺(語学・国際事業主任)の3名が参加します。

・9/11(金)~13(日) ユースボランティアリーダーズフォーラム: 於山中湖

※とちぎYから8名のリーダーと職員が参加します。(那須Yから3名)

・9/11(金)~14(日) 学生YMCA主催夏期ゼミナール: 於東山荘

※那須Yから1名のリーダーが参加します。

・9/12(土) サタデークラブ(紙すき体験)

・9/19(土) サタデークラブ(リンゴ狩り)

・9/19(土)~20(日) リレー・フォー・ライフ2015: 於宇都宮城址公園

・9/19(土)~22(火) 全国YMCAリーダー研修会: 於名古屋Y

※とちぎYから2名のリーダーが参加します。(那須Yから1名)

・9/26(土) サタデークラブ(リンゴ狩り)

・9/27(日) Yキッズ(アルパカ牧場見学)



## 編集後記

・8月31日(月)の下野新聞に南投YMCA(台湾)と、とちぎYMCAの国際交流の一環として、大田原にある国際医療福祉大学での医療福祉での交流会の模様が掲載されました。